

砂塵 (1939)

DESTROY RIDES AGAIN

メディア 映画
ジャンル 西部劇
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 93分
初公開日 1941/05
公開情報 劇場公開

【解説】

文句なしに楽しめるウェスタン。原作はその小説界の第一人者M・ブランド。監督は荒っぽい活劇とドタバタ専門G・マーシャルー彼としては一級の仕事だが、ジミーにマレーネ、この主演者なくしてはせいぜい星三つの出来。ところが、この両者がひとときわスターの魅力を放って満点の作品にしてしまったのが本作。ボトルネックなる西部の町が舞台。ここを牛耳る悪徳市長はいかさま師ケント（憎々しげなB・ドレンヴィ）を使って、酒場の歌手フレンチー（ディートリッヒ）に片棒を担がせ、牧場主クラゲットの土地を根こそぎ、初歩的ないんちき賭博で奪い取る。これに怒った保安官キーオも亡き者とされ、酔いどれのウォシュ（C・ウィニングー）がその後任に選ばれるが、彼は心を入れ替えて、町のウジ虫一掃に、かつて助手を務めた名シェリフ、デストリーの息子トム（スチュワート）を今度は彼の助手に呼び寄せる。ところが、ナプキン・リングを彫るのが趣味というこの男、腰にガンベルトをぶら下げるわけでもなく、法と秩序を重んじるーと弁は立つが、いっこう頼りない。しかし、頭の方は大変なもので、恐妻家で先夫の名で呼ばれクサっているロシア系の自称“名門の出”ボリスとウォシュ二人きりを使って、市長たちの不正をまずキーオ殺しから暴き、ウォシュがふいを突かれて殺されたとなれば、いよいよベルトを腰に巻き、フレンチー煽動の女性軍の援助も得て、ダニ退治に向かう。ジミーがジミーならではというキャラクターを演じ、マレーネも鉄火肌ぶりをいかに発揮。脇の人物も的確に描かれ、全体にユーモラスな味が何とも言えず、ジミーの格言癖も効果満点。繰り返しの鑑賞に堪える愛すべき作品だ。

【クレジット】

監督	ジョージ・マーシャル	George Marshall
製作	ジョー・パスターナク	Joe Pasternak
原作	マックス・ブランド	Max Brand
脚本	フェリックス・ジャクソン	Felix Jackson
	ガートルード・パーセル	Gertrude Purcell
	ヘンリー・マイヤーズ	Henry Myers
撮影	ハル・モーア	Hal Mohr
音楽	チャールズ・プレヴィン	Charles Previn
	フランク・スキナー	Frank Skinner
出演	マレーネ・ディートリッヒ	Marlene Dietrich
	ジェームズ・スチュワート	James Stewart
	ブライアン・ドンレヴィ	Brian Donlevy
	チャールズ・ウィニングー	Charles Winninger
	ウナ・マーケル	Una Merkel
	ミシャ・オウア	Mischa Auer

allcinema

アレン・ジェンキンス	Allen Jenkins
アイリーン・ハーヴェイ	Irene Hervey
ジャック・カーソン	Jack Carson
ウォーレン・ハイマー	Warren Hymer
ビリー・ギルバート	Billy Gilbert
サミュエル・S・ハインズ	Samuel S. Hinds